

燃えると二酸化炭素ができるものは、何があるの

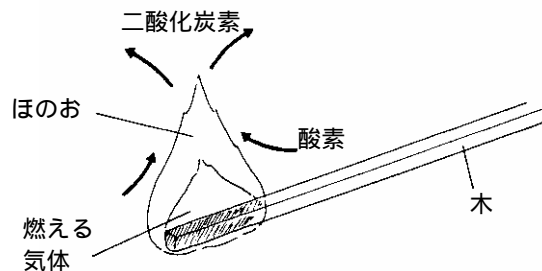


燃える物や燃料に使われる物は、金属以外は、たいてい二酸化炭素が出るよ。

身近にある木や紙、布、油、プラスチック製品、燃料として使われる石油、ガス、石炭などは、どれも、燃やすと二酸化炭素が出てきます。これらの物をつくっている主な成分は、炭素だからです。

木や紙の燃えている部分をよく見ると、木から少しはなれたところに明るいほのおが出て燃えています。火で熱せられて木などの成分が分解され、気体になって出てきて、それが燃えているのです。この気体と、空気中の酸素が急激きゅうげきに結びつき、熱や光を出しているのがほのおなのです。

いちばん多い成分の炭素が、空気中の酸素と結びつくと、二酸化炭素ができます。プラスチック製品などは、燃えると有毒なガスが出てくることが多いので、燃やす実験はやめましょう。



金属が燃えても、二酸化炭素はできない

金属は、マグネシウム（カメラのフラッシュなどに使われる）のように空気中で強い光を出して燃えるものもありますが、ふつう、燃えにくいです。

鉄の細い糸のようなスチールワールは、空気中では赤くなり、酸素中では火花を出して燃えます。けれど、金属が燃えるとき、ほのおは出ず、二酸化炭素もできません。燃えると、金属と酸素が結びついた、元の金属とはちがったものができるだけです。

物を燃やすと、たいてい、二酸化炭素ができるんだ

